

## 「やさしい仏像の見方」を開催しました

平成22年10月5日から11月2日までの期間、3回にわたって円明院（三豊市仁尾町）ご住職の武田和昭さんを講師にお迎えし、講座を開催しました。

いま、静かなブームとなっている仏像。興味を持っている方も大勢おられるようで、たくさんの受講申し込みをいただきました。

1回目は「仏像の歴史」というテーマで、インドに始まり中国・朝鮮半島から日本に入ってきた歴史についてのお話がありました。仏像は釈迦の入滅後500年くらいから、仏教に手厚いアショカ王の時代に作られ始めたとされています。初期の仏像はギリシャ彫刻の影響が見られますが、だんだんとインド的な様相を強めていったそうです。中国に入ると、5世紀には有名な敦煌莫高窟が造られるなど、盛んに造像されるようになっていきます。また、中国・朝鮮半島に残る仏像には日本の仏像との共通点も多く、日本から大陸へ渡った僧たちが持ち帰ったものや、それを模して作られたものなど、大きな影響が見られるということでした。

2回目は「仏像の種類と造像年代」という内容で、木造・金銅造・塑造・乾漆造といった仏像の作り方についてのお話がありました。如来・菩薩・明王・天部といった仏像の種類やその特徴など、実例を挙げながら詳しく説明されました。



この日、武田さんが大日如来坐像を持って来られ、受講者の皆さんは貴重な仏像を実際に見ながら、講座で解説された内容と照らし合わせて鑑賞しました。

3回目は「讃岐の仏像」というテーマで、高松地区と中心とした特徴ある仏像がたくさん紹介されました。讃岐は都との結びつきが強く、普通は地方ではあまり見ることのできない仏像も多く残っているそうです。貴重な像ではあるものの、身近にあることを知らなかったという方も多くおられたようで、改めて自分の足で地元の仏像を巡ってみたい、という声も聞かれました。

どの回も、武田さん自らが撮られた写真も含み、多数のスライドが紹介されました。受講生の中には自分で勉強されている方も多く、講座を聞いてますます仏像への興味を深めた様子でした。

